

科学研究費助成事業 研究成果報告書

平成 28 年 5 月 31 日現在

機関番号：17301

研究種目：若手研究(B)

研究期間：2013～2015

課題番号：25870520

研究課題名(和文) 担い手のライフストーリーからみたジオパークの観光化プロセスに関する研究

研究課題名(英文) Study on Process of Making Geopark as A Tourist Site from the Viewpoint of Life-story of Person Who Bears Responsibility

研究代表者

深見 聡 (FUKAMI, Satoshi)

長崎大学・水産・環境科学総合研究科(環境)・准教授

研究者番号：20510655

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 3,000,000円

研究成果の概要(和文)：ジオパークは、地域資源の保全と活用を目的とした仕組みである。特に我が国では過疎地においてジオツーリズムの展開による地域の活性化が期待されている。本研究では、過疎地の中でも島嶼に焦点を当て、そこでのジオツーリズムの展開可能性について、地域資源の保全や活用の当事者となる担い手としての地域住民に着目し、観光化プロセスの解明にあたった。

その結果、地域住民の主体性の醸成が重要であること、とりわけ自治体との意識共有を図るにあたっては、ジオパークおよびジオツーリズムの定義と実際の導入場面とを相互に比較しながら、定着へとつなげていく「過程」の丁寧な蓄積の必要性を明らかにした。

研究成果の概要(英文)：Geopark is a structure aimed at preservation and utilization of local resources. Especially in our country, regional vitalization of underpopulated area is expected through developing Geopark. Among many underpopulated areas, this study particularly focuses on islands and verifies the probability of developing Geotourism and the process of making Geopark as a tourist site by focusing on local people as those who are responsible for preservation and utilization of local resources. The study revealed the importance of building independence of local people and the necessity of carefully accumulating "process" for being established by defining Geopark and Geotourism and mutually comparing them with actual introduction settings, particularly when sharing awareness with local governments.

研究分野：観光学

キーワード：ジオパーク ジオツーリズム 条件不利地域 島嶼 エコツーリズム 環境保全 持続可能な地域づくり 観光地理学

1. 研究開始当初の背景

21世紀は「観光の世紀」と言われて久しい。確かに、過疎・高齢化の進行による交流人口の確保、その土地固有の地域資源を活かした地域づくりの取り組みは、全国至るところで注目され、具体化が進められている。特に、地域が主役となる着地型観光について、その必要性を指摘する声に異論はないだろう。

観光は、外部からの来訪者なくして成立しないし、見どころとなる観光対象、観光資本、これら3つの要素は不可分の関係にある。たとえば、観光資本の立場には旅行会社や運輸、宿泊業者が位置づけられる。旅行会社は当然ながら利益を得るための行程を組み立てる。これに附随して運輸、宿泊業者が観光客や旅行会社のニーズに応えるべく運行体制や施設整備などのサービスを展開してきた。この三位一体の仕組みが、わが国の観光を長い間支えてきた。

それに対して、着地型観光の台頭の背景には、これまでの観光の展開における問題点を克服しようという意図が存在していると思われる。すなわち、担い手となる地域住民の存在へ着目する必要がある、観光対象となる地域社会(コミュニティ)が主体性をもって観光客を迎え入れてきたかという強い疑問が、各地で課題として顕在化してきたことへのアンチテーゼとしてそれらをとらえていくことが求められる。このように、地域資源の観光資源化において地域社会はなおざりにされてきた結果、持続可能な観光の展開が危ぶまれる事態が各所で発生していると言えよう。

本研究の主題として取り上げるジオツーリズムは、地域が主役となる着地型観光の代表的な形態として知られる。新たな箱モノを建設したり、観光資源を一方的に利用したりするのではなく、地域にあるものを持続的に提供することを基本とする。そして、地域が受け入れられる範囲内で展開する、自然環境と人間環境の調和的共生を強く意識した観光である。我が国におけるジオパークは、多くが過疎地域に分布し、とりわけ島嶼部での認定地が増加している点が特徴として挙げられる。

2. 研究の目的

本研究は、ジオパークとは何か、そしてジオパークで展開されるジオツーリズムの特徴は何かを明確にすることを目的とし、真に地域の発展につながるための諸問題について検討を加えようという目的を掲げ、以下の二点の観点を中心に進めることとした。

(1)ジオパークやジオツーリズムを推進していく上で、他の種類のツーリズム、たとえば時間スケールの点で比較されやすい歴史観光や、ユネスコの正式プログラムという共通点をもつ世界遺産観光の特徴に言及しつつ、それらの本質に迫る。

(2)新しい観光形態としてのジオツーリズム

に注目し、とくに小規模島嶼に焦点をしばってジオパークの仕組みを導入することの可能性について、日本ジオパークに認定された三島村・鬼界カルデラジオパーク、またジオパークと類似した観光形態として知られるエコツーリズムを推進している小値賀島や対馬、屋久島といった島嶼地域を研究対象として取り上げ、ジオツーリズムの有用性について対比するための特性把握に努めた。

3. 研究の方法

前述の目的を達するために、それぞれの対象地域において関係者への聞き取り調査、文献収集、各種行事への参与観察などによりデータを取得した。そのうち、三島村・鬼界カルデラジオパーク、小値賀島に関しては以下の手順でおこなった。

(1)三島村・鬼界カルデラジオパーク

三島村役場および島に暮らす住民に対してライフヒストリー調査、面接質問法による聞き取り調査、硫黄島全世帯を対象としたアンケート調査等をおこない、結果をまとめる。筆者は、2013年9月6~8日にアンケート調査ならびに聞き取り調査を実施した。その後、同年12月21日、2014年12月17日、2016年2月3~4日に追加の聞き取り調査をおこなった。対象者は、それぞれ役場職員および住民に設定した。役場からは、村長の日高郷士氏(当時)、大山秀人氏、大岩根尚氏に応じていただき、住民からは硫黄島出身で退職を契機にUターン移住した60歳代男性と、Uターン移住者である20歳代女性、竹島在住のUターン移住者である30歳代男性の3名が応じた。聞き取りにあたっては、非統制的な自由な発話の収集に努めたが、対象者本人の「自分史」的内容と、客観的事実として登場した本ジオパークに関する内容とを大別し記録していった。

(2)小値賀島

2013年11月9日~10日に、筆者をはじめ長崎大学環境科学部学部生・大学院生計25名で、おぢかアイランドツーリズムの高砂樹史氏による座学および質疑応答ののち、6軒の民泊先を対象として、面接質問法による聞き取り調査をおこなった。

4. 研究成果

結果、ジオパークとは地域が主体となって文化的な価値もふくむジオサイト=地域資源を保全・活用することを目的とし、持続可能な地域づくりを具現化していく動的な仕組みであること、ジオツーリズムとはジオサイトの特徴を知りその保全意識の涵養へとつなげていく、地域が主体となった観光形態であることが明確になった。

また、具体的な研究対象地より取得したデータから、ジオパーク構想の推進過程において、地域住民の意識醸成を図るには、ジオパークの意義や目指す地域像を明確に住民の間に普及させることが重要であるため、そ

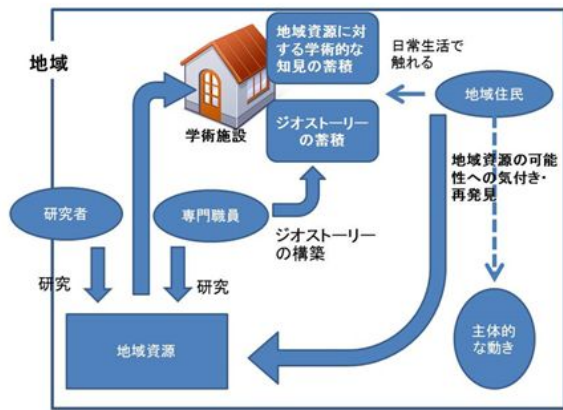


図 1 ジオパーク構想の推進と住民意識の醸成モデル

の点に傾注した推進体制づくりが求められること、地域において地域住民によるジオパーク活動につながるような主体的な活動が地域に根づいていることが重要になることが明らかになった。合わせて、地域住民による主体的な活動を根づかせるには、地域資源への気づきや、再発見を促すことが有効であり、当該地域の資源をもとから熟知しており、専門職員として活躍できる人材が存在することは、ジオパーク推進の過程においてとくに不可欠である点が明確となった。また、住民の地域資源への再発見に関して、それを促す役割を果たすものとしてジオストーリーが注目される。ジオストーリーは住民へのジオパークの意義の普及を促す役割をもつことから、その構築過程は慎重な議論の蓄積が求められる(図1)。

また、小値賀町の事例研究からは、地域特有の自然環境や生活環境(地域資源)を活かした着地型観光の確立に取り組んでいる。つまり、初期費用が比較的安価な観光形態であったからこそ、都市部と比較して経済力に乏しい条件不利地域である当地でも取り組むことが可能であったことが示唆された。今後、持続的に民泊事業を展開していくためには、島民の生活を潤すための経済的効果の波及および高齢化が進む民泊経営者の跡継ぎの確保が不可欠である。ただしここで留意すべきは、前者は民泊事業のみで生計が成り立つということを指しているのではない点である。高齢者が担い手として多いことや、実際の身の丈にあった受け入れ人数を考慮すると、公的年金や他の収入を得ながらの「兼民泊」も経営の一つの形としてとらえておく方が現実的であろう。

また、住民が考える小値賀町の良さは、「人とのつながり」「自然環境」など身近で日常的なものであり、それは都市圏や首都圏の人々にとっては非日常化しつつあるものである点や、民泊体験によるツーリズムを展開する場合、民泊経営者だけでなく、まち全体の活性化を視野に入れた観光まちづくりの視点が重要である。民泊のなかで実施される

体験プログラムの多くは、「農業や漁業などの生業や、郷土料理、工芸といった島民が特別な訓練を行わなくても提供できる」ものであり、利点の伸張や課題の克服にはこの原点に立った議論の蓄積が不可欠である。この有用な成果を、今後認定地域の増加が予想される島嶼地域のジオパークやジオツーリズムの導入にあたって利点や課題の反映に心がけていくべきであろう。

5. 主な発表論文等

[雑誌論文](計15件)

深見聡、軍艦島の光と影、DARK tourism JAPAN、査読無、2、2016、30-31

深見聡、山田有沙子、金成恩、アイランドツーリズムの担い手に関する研究 長崎県小値賀町を事例に、日本観光研究学会全国大会論文集、査読無、30、2015、137-140

深見聡、大久保守、ジオパーク構想の推進過程における住民意識 鹿児島県三島村を事例に、九州地区国立大学教育系・文系研究論文集、査読有、2(1)、2014、1-13

<http://id.nii.ac.jp/1066/00000217/>

深見聡、島嶼におけるエコツーリズムの展開 長崎県上対馬地域の住民意識調査から、九州地区国立大学教育系・文系研究論文集、査読有、1(2)、2014、1-12

<http://id.nii.ac.jp/1066/00000200/> FUKAMI, S., Potential Construction of a Geopark in Small Islands: Preliminary Qualitative Action

Research on the Geopark Concept in the Mishima Village, Kagoshima Prefecture, Japan. Northeast Asia Tourism Research, 査読有、10(1)、2014、289-309

<http://hdl.handle.net/10069/34201>

楊燕、深見聡、中国のジオパークにおけるジオツーリズムの現状と課題 伏牛山世界ジオパークの事例から、地域生活学研究、査読有、4、2013、12-24

<http://hdl.handle.net/10110/12368>

深見聡、ジオパークを活かしたこれからの観光まちづくり、観光とまちづくり、査読無、513、2013、22-23

深見聡、ジオパークとジオツーリズムの展望 日本と中国の事例から、人文地理、査読有、65(5)、2013、58-70

<http://hdl.handle.net/10069/34256>

深見聡、高木香織、九州北部豪雨における災害復興と着地型観光 福岡県八女市星野村を事例に、九州地区国立大学教育系・文系研究論文集、査読有、1(1)、2013、1-12

<http://id.nii.ac.jp/1066/00000181/>

[学会発表](計19件)

井出明・深見聡・鈴木晃志郎・須藤廣、

ダークツーリズムから見た産業遺産の意義、進化経済学会、2016年3月26~27日、東京大学（東京都）

深見聡、三島村・鬼界カルデラジオパークにおけるジオツーリズムの確立可能性、進化経済学会、2016年3月27日、東京大学（東京都）

深見聡、小規模島嶼におけるスモール・ツーリズムの取り組み 三島村・鬼界カルデラジオパークを事例として、「持続可能な地域観光戦略の構築と評価」に向けての地域人材育成および国際連携」公開国際シンポジウム、2016年2月13日、山口大学（山口市）

深見聡、山田有沙子、金成恩、アイランドツーリズムの担い手に関する研究 長崎県小値賀町を事例に、日本観光研究学会、2015年11月29日、高崎経済大学（群馬県高崎市）

FUKAMI, S., Proposal and Problem of Geopark Concept to Small Islands: A case Study of the Mishima Village Geopark Concept, Kagoshima Prefecture, Japan. 6th International UNESCO Conference on Global Geoparks, 2014年9月19~22日、セントジョン(カナダ)

深見聡・金成恩・山田有沙子、長崎県小値賀町の観光まちづくり 民泊受け入れ住民への聞き取り調査から、日本島嶼学会、2014年9月5~7日、五島市総合福祉健康センター（長崎県五島市）

FUKAMI, S., Consideration on the Resident Participation of the Geopark Concept. The 31th AKHT Hotel & Tourism Conference, 2014年5月9日、釜山（大韓民国）

深見聡、大久保守、小規模島嶼におけるジオパーク構想の推進と課題 鹿児島県三島村を事例に、日本地理学会、2014年3月26~28日、国士舘大学（東京都）

深見聡、薩摩硫黄島におけるジオパーク構想の現状と課題、進化経済学会、2014年3月15~16日、金沢大学（石川県金沢市）

深見聡、2012年九州北部豪雨からの復興と着地型観光、日本地理学会、2013年9月28~30日、福島大学（福島市）

深見聡、ジオパークに求められる観光教育と地理教育の役割、日本地理教育学会、2013年8月24日、佐賀大学（佐賀市）

FUKAMI, S., The Present Situation and Problems on increasing of Korean tourists in Tsushima-Island, Japan. The 7th International Conference Tourism Institute of North Asia 2013, 2013年8月20~22日、金泉（大韓民国）

FUKAMI, S., Environmental Preservation and Ecotourism in Yakushima Island, Japan. 2013 IGU Kyoto Regional Conference, 2013年8月4~8日、京都

国際会議場（京都市）

〔図書〕（計3件）

深見聡、古今書院、ジオツーリズム論-大地の遺産を訪ねる新しい観光（横山秀司編）、2014、163頁（担当 pp.83-94、pp.95-105）

深見聡、古今書院、ジオツーリズムとエコツーリズム、2014、197頁

深見聡、古今書院、地域資源とまちづくり 地理学の視点から（片柳勉、小松陽介編著）、2013、212頁（担当 pp.33-40）

6. 研究組織

(1) 研究代表者

深見 聡 (FUKAMI, Satoshi)

長崎大学・水産・環境科学総合研究科（環境）・准教授

研究者番号：20510655